

2026年8月31日
NGK株式会社

2030年度目標達成に向けた「第6期環境行動5カ年計画」を策定

NGK株式会社(社長:小林茂、本社:名古屋市)は、2030年度の環境目標の達成に向け、2026年度から2030年度までのNGKグループの環境への取り組みを示す「第6期環境行動5カ年計画」を策定しました。

NGKグループは、2021年度から「NGKグループ環境ビジョン」に基づき、事業活動を通じて「カーボンニュートラル」「循環型社会」「自然との共生」の実現に注力しています。今回策定した「第6期環境行動5カ年計画」は、その実現に向けた2026年度から2030年度までの具体的な目標と実施項目を定めたものです。特に、温室効果ガス(GHG)排出量については、Scope 1およびScope 2に加え、Scope 3の削減目標を設定し、環境負荷の低減に取り組みます。

■ 第6期環境行動5カ年計画の概要

＜カーボンニュートラル＞

2030年度のGHG排出量について、Scope 1およびScope 2の合計で37万トンとする目標を設定しました。内訳は、Scope 1排出量19万トン、Scope 2排出量18万トンです。また、Scope 3については、2030年度に2022年度比で25%削減する目標を設定しました。目標達成に向けて、省エネルギー化、再生可能エネルギー(再エネ)利用拡大、焼成工程などで使用する燃料の低炭素化、CCUS(CO₂の回収・利用・貯留)を含む先進技術の開発を進めます。Scope 3の削減については、サプライヤーとの連携や製品使用時の環境負荷低減など、バリューチェーン全体で取り組みます。

＜循環型社会＞

売上高あたりの廃棄物発生量の削減や、高い再資源化率の維持を目標に掲げ、資源循環の推進に取り組みます。

＜自然との共生＞

水資源の保全を重要なテーマと位置付け、売上高あたりの取水量を年間0.5%削減する目標を設定しました。目標達成に向けて、水資源の保全などに取り組みます。

また、3カテゴリーに共通する取り組みとして、製品を通じた環境負荷低減への貢献を評価・可視化する仕組みの整備を進めます。製品の環境貢献度を評価する指標の開発・導入を通じて、環境価値の適切な発信につなげていきます。

NGKグループは、第6期環境行動5カ年計画の推進を通じて、事業活動と製品・サービスの両面から環境価値の創出を進め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

■ 第6期環境行動5カ年計画の目標と実施項目

カテゴリー	項目名	取り組み	管理範囲	管理指標	2026年度目標	2030年度目標	単位	関連SDGs目標
カーボンニュートラル	GHG排出量削減	・省エネ活動 ・燃料転換 ・CO ₂ 回収・メタネーション ・CO ₂ フリー燃料の導入準備	連結	Scope1・2	43	37	万tCO ₂ e	
				Scope1	21	19	万tCO ₂ e	
				Scope2	22	18	万tCO ₂ e	
	Scope3	・一次データ化 ・サプライヤー、お客さままでの排出量削減	連結	2022年度比削減率	一次データ化推進	25	%	
循環型社会	再エネ電力利用率向上	・再エネ導入拡大 ・再エネ調達推進 ・創エネ事業検討	連結	再エネ電力利用率	50	60	%	
	廃棄物削減	・廃棄物発生量の売上高原単位削減	連結	5年間平均売上高原単位削減率	△1	△1	%/年	
	廃棄物再資源化	・高レベルでの国内再資源化率を維持	国内	再資源化率	99	99	%	
自然との共生	取水高原単位削減	・取水量の売上高原単位削減	連結	5年間平均売上高原単位削減率	△0.5	△0.5	%/年	
	公害汚染防止	・環境法令順守と汚染の未然防止を推進	連結	重大違反件数 ^(*)	ゼロ	ゼロ	件	

※重大違反件数：環境関連法令・条例等に対する違反のうち、行政処分、是正命令・勧告等を受けた件数。

★：第6期計画での重要テーマ・取り組み項目、☆：2030年以降に向けたテーマ・取り組み項目

カテゴリー	大テーマ	小テーマ	取り組み	KPI
カーボンニュートラル	気候変動の緩和 (GHG排出削減)	★Scope1 排出削減	★自社製品・サービス活用 ★省エネ(ICP活用) ☆イノベーション(燃料転換・CCUS) ☆再エネ利用(水素、アンモニア、電化など)	Scope1・2 排出量：37万tCO ₂ e Scope1 排出量：19万tCO ₂ e Scope2 排出量：18万tCO ₂ e
		★Scope2 排出削減	★自社製品・サービス活用 ★省エネ(ICP活用) ★再エネ利用(PV設置、創エネ、再エネ調達など)	
		★Scope3 排出削減	★カテゴリー11(サプライヤーとの連携) カテゴリー11(お客さまとの連携) 他のカテゴリー	Scope3 排出削減率：△25%(FY22比)
	気候変動への適応	自然災害のリスク低減	各拠点での洪水対策、物流確保などの対応	—
資源循環	サーキュラーエコノミーの推進	☆原材料の効率的利用	☆製品系列ごとにテーマ探索	—
		★廃棄物の削減	★発生削減(歩留まり向上など) ★再資源化向上 ☆廃プラのリサイクル(マテリアルリサイクル拡大)	売上高原単位削減率(5年間平均)：△1%/年 99%以上(国内)
		☆製品の再利用・長寿命化	☆製品系列ごとにテーマ探索	—
自然との共生	ネイチャーポジティブの推進と汚染の防止	原材料資源へのインパクト低減	サプライヤーでの環境負荷低減 ☆設計・プロセスの最適化 原材料歩留まりの最適化	—
		水資源の有効利用・汚染防止	★取水量削減 水質・土壌汚染の防止	売上高原単位削減率(5年間平均)：△0.5%/年
		大気汚染防止	大気汚染の防止	重大な違反：ゼロ件
		自社製品の環境負荷低減	含有化学物質管理	
環境全般	企業価値の向上	☆製品の環境貢献	☆環境貢献度の指標開発と導入(Scope4など) 環境貢献製品の開発と普及(売上比率など)	—
		★社外対応	★外部評価(CDP、FTSEなど) ★開示対応(CSRD、SSBJなど)	—
		ステークホルダーとの連携	イニシアチブへの参画(SBT、RE100など) 地域・業界団体への参画(EPOC、JFCAなど)	—
		社内教育	教育プログラム改善(検定試験の導入など)	

※Scope 1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出。

Scope 2：他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う温室効果ガスの間接排出。

Scope 3：Scope 1、Scope 2以外のバリューチェーン全体を通じた温室効果ガスの排出。

関連情報

NGKグループ環境ビジョン：<https://www.ngk.co.jp/sustainability/environment/vision.html>

環境行動5カ年計画：<https://www.ngk.co.jp/sustainability/environment/plan.html>

NGK株式会社

〒467-8530
名古屋市中瑞穂区須田町2番56号

【お問い合わせ先】

TEL：052-872-7980
コーポレートコミュニケーション部 狩谷、井上